

平成27年度

小高中学校 学校図書館支援活動記録

学校図書館支援員 末永公美子

1 学校図書館の概要

学校の紹介

小高中学校の本校舎のある小高区は、未だ原発事故による避難区域にあるため、鹿島区の鹿島小学校の敷地に仮設校舎を設けている。

仮設校舎の限られた教室数から図書室を設置することは難しく、1階の廊下3か所に本棚を置いている。学級文庫も、教室に場所がないことと1階の教室のすぐ前に本棚があることから対応していない。なお、本校舎の図書室は2011年の震災当時のまま手付かずである。

平成27年度生徒数

1年	2年	3年	合計
34人	36人	32人	102人

(平成27年度12月末時点)

学校派遣日数 木・金曜日 週2回

図書担当職員 齋藤直樹先生

学校図書館蔵書数(4月当初) 2,576冊

今年度受入冊数(3月末時点) 605冊

うち 市費購入冊数 250冊

うち 杉並文庫購入冊数 161冊

うち 寄贈資料点数(CD含む) 194点

※以上は仮設校舎にある蔵書数である。

2 平成27年度の課題及び目標

課題① “図書の貸出”が為されていない

校内において図書の利用は自由だがその記録がないため、一切の統計を取るすべがない。

→目標 “図書の貸出”の導入

昨年度の冬休みにおいて、長期休暇における図書の貸出を実行した実績を生かし、貸出業務を確立する。

課題② 図書委員会活動の内容の充実を図る

4月当初の図書委員の活動は書架整理と図書の利用・返却の呼びかけをするだけである。

→目標 活動の形が残せるよう、生徒主導での図書便りの作成を提案し、その作業をサポートする。

3 活動の方針

教育計画は本校舎での本来あるべき活動を想定したものであり、現状にそぐわない。生徒・先生に対する図書のアプローチを模索し、臨機応変に行動することとする。

生徒会総会用に用意された、図書委員会で話し合われた活動方針が別途あり、基本的な活動計画はそれに沿うこととする。

学校図書館年間活動計画（スケジュール）

月別	学校図書館支援員活動内容	生徒図書委員活動内容	市立図書館との連携
4月	・ 予算検討と管理の確認 ・ 担当教諭との打合せ ・ 新入生への図書室利用に関わるオリエンテーション	・ 前期図書委員オリエンテーション	・ 第1回学校図書館支援会議
5月		・ 新刊購入アンケート実施	・ 第2回学校図書館支援会議
6月	・ 図書費購入分の選書支援 ・ 杉並文庫選書支援	・ 図書便り第1号発行	
7月		・ 図書便り第2号発行 ・ 夏休みの本の貸出	
8月			・ 第3回学校図書館支援会議
9月	・ 本の貸出開始	・ 前期図書委員会（前期反省） ・ 後期図書委員オリエンテーション	
10月	・ CDの貸出開始		・ 杉並区立図書館視察 ・ 第4回学校図書館支援会議
11月	・ 図書費購入分の選書支援 ・ 次年度の購入雑誌の選定支援	・ 図書便り第3号発行	
12月		・ 生徒会専門委員会 ・ 図書便り第4号発行 ・ 冬休みの本の貸出	・ 第5回学校図書館支援会議
1月			
2月		・ 後期図書委員会（後期反省）	・ 第6回学校図書館支援会議
3月	・ 図書便り号外発行 ・ 新学期準備	・ 図書便り第5号発行	・ 第7回学校図書館支援会議

4 年間活動内容

1年間の主な活動記録

《基本業務》

雑誌の受入・装備 寄贈本の受入・装備 書架整理 季節の飾りつけ、牛乳パックを活用した棚

底上げバーなどの作成 作業マニュアルの作成

4月

- ・作業スペースを確保。2階会議室に長机を一つ置き、作業スペースとする。それに伴い、前年度は半日だけ学校に来ていたが今年度は一日学校で作業できることになった。
- ・新入生が本棚の前に集まって本を読んでいた。



新学期開始当初の書架の前の様子

- ・4月23日(木)1年生2クラスのオリエンテーションを行う。



オリエンテーションの様子。

1年生2クラスそれぞれ国語の授業の時間を利用し、小高中学校の図書についての説明とブックトークを行った。

- ・図書便りの素案作り。今年度は図書委員主導で作成してもらうことにする。基本的には2か月に一回、偶数月発行。(夏休み直前などは別途作成する)
- ・先生方へ向けた図書の利用案内を作成した。

5月

- ・新刊雑誌の配架用にマガジンカバーを購入した。職員室前の棚に雑誌用のスペースを設ける。「授業や帰る前に必ず本棚に戻しましょう」の案内を作り、新刊のマガジンカバーにはさめた。
- ・震災後寄贈されたCDの管理を任される。貸出利用するかについては未定のまま装備と登録を進める。
- ・新規購入図書のアンケートを実施。本の貸出についてのアンケートを盛り込んだ。

「小高中学校 平成27年度本の貸出に関する意識調査」

質問：「本の貸出が通常にあったら利用したいですか？右のどれかを○で囲んでください。」

回答項目：利用したい・どちらともいえない・利用しないと思う

調査結果(全学年) 在籍者数 100名(5月当初) 回答数 72

項目	利用したい	どちらともいえない	利用しないと思う	無回答
回答数	36	6	17	41
%	36%	6%	17%	41%

《考察》 「利用したいと思う」「どちらともいえない」を合わせた割合は過半数を超え、小高中学校における生徒の図書への関心は高いものと考えられる。この結果をもとに期間を限定しない本の貸出を提案する。

6月

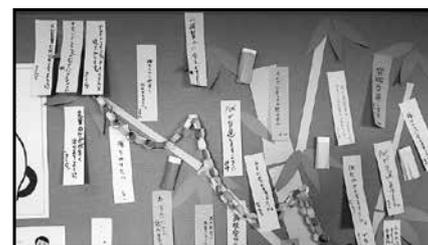
- ・ 6月1日 図書便り第1号発行。

作成については図書委員長に案内し、全学年全クラス（5クラス）の図書委員が作成に参加できるような案を再考する。

- ・ 夏休みの本の貸出について素案を作成。2学期以降も継続して利用できるように計画した結果、生徒一人一人に「学校図書利用帳」を作成することにした。図書の貸出についての案内や利用のルールとマナーを利用帳に盛り込む。6月末に開かれた委員会の集まりに参加し、この旨を図書委員に説明した。
- ・ リクエストをメインにした図書費購入分の図書の選書作業を行う。

7月

- ・ 委員会活動の時間を利用し、図書委員に今年の杉並文庫の配架を手伝ってもらう。
- ・ 七夕の飾りを掲示板に作成した。色紙で笹と飾りを作り、短冊用に折り紙を切って「ご自由にお書きください」とマジックを添えた。生徒の反応は良く、にぎやかな掲示板になった。
- ・ 7月13日 図書便り第2号発行。



笹飾りの様子

8月

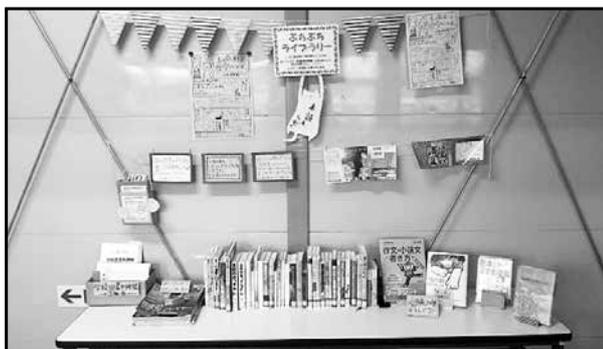
- ・ 滞っていた絵本の登録確認、大型本のフィルムコートを終わらせる。
- ・ 地元の道の駅やサービスエリアなどから南相馬市や福島県に關係する無料のパンフレットをもらい、「地域の資料」のファイルを作成した。
- ・ 本の貸出について改めて担当教諭に相談し、2学期以降も継続して本の貸出を行うこととした。利用形態は夏休みの貸出の手順をそのまま引き継ぐ。貸出開始にあたり、利用のマナーをプリント1枚にまとめた。
- ・ 貸出開始にあたり多読賞を提案。年度末に年間でいちばん本を借りた生徒に賞状を授与する。

9月

- ・ 9月4日 3年生を対象に絵本の読み聞かせについて講習を行う。福祉体験で3年生のほとんどが保育園・幼稚園へ行くということで、絵本の読み聞かせについてのレクチャーの依頼あり。読み聞かせのポイントを簡単にまとめ、小高中学校の蔵書や市立図書館から絵本を20冊程度用意し、実際に絵本を読むなどしながら紹介した。
- ・ 3年生の教室の前に「ぷちぷちライブラリー」を設置。

3年生の教室がある2階には本棚を置いていないため、出張スペースを作ることにした。小高中学校の蔵書の中から40冊本を選び、3年生の教室の前に長机を置いてレイアウトした。図書委員と共に選書したリストを書き出し、壁に下げる。2か月に一度入替、2回目以降は3年生の図書委員に作業を頼んだ。

3年生のぶんの学校図書利用帳もこのスペースに置き、気軽に貸出を利用できるようにした。



写真左：図書委員長選書風景 手前の絵本は読み聞かせの講習に使ったもの
写真右：ぶちぷちライブラリー全景 壁の飾りはたこ糸を渡して下げた

10月

- ・CDの貸出開始。



一人1点、学校図書館支援員がいるときのみ貸出・返却を受け付ける。対応する場所は2階の作業スペースで、CDはテーブルにすべて並べた。CD用の布製の貸出袋を準備する。

- ・文化祭準備や中間テストなどで忙しいため、次回の図書便りは10月ではなく11月半ばに変更した。
- ・リクエストを反映させた図書費購入分の新刊を配架。

11月

- ・読書祭り開始。11月2日（月）～11月30日（月）貸出分まで、応募締め切りは12月3日（木） 抽選日：12月4日（金）

本を借りるか本のおススメコメントを書くかして、1冊につきスタンプを1個集める。スタンプが5個たまったら景品に応募可能。景品は小高中学校で購読している雑誌の付録や手作りの豆本、和綴りのメモ帳などをあてた。

応募総数：11

景品を廊下に陳列していたので、景品に対する反応はあった。しかし本を借りることになじみがない生徒がまだまだ多く、参加者は思ったほどには伸びなかった。

景品を置いたり応募ポストを設置した場所も校舎の 2 階に限定してしまい、図書室がないことによる“学校全体を表現の場所にできる”という強みが全く活かせなかったことも残念である。

- ・来年度購入する雑誌のラインナップ決定。
- ・図書費購入分の図書（最終）選書
- ・ぶちぶちライブラリーに雑誌『ジュニアエラ』『ニュースがわかる』のバックナンバーを置き、受験対策の参考になるようにポップを書いて案内した。

12月

- ・企画「図書部屋に年賀状をくださ〜い♪」実施。

読書祭りと同様に景品を用意し、はがきサイズの画用紙に年賀状を書き、応募してもらう。年賀状を書いた人は景品に応募できる。

1月

- ・年賀状企画に応募された作品の掲示。

小正月が過ぎた後で景品への応募を締め切り、応募が重複した景品については担当教諭にくじ引きをしてもらい、当選者を決定した。

2月

- ・郷土コーナーの図書に別置サインを添付。「郷土」と印刷して背ラベルの上に貼り付けた。



応募された年賀状

3月

- ・図書便り第5号発行。
- ・図書便り号外を発行。一年間の集計（貸出冊数など）を報告する。
- ・多読賞決定。各学年1名ずつ一番本を借りた生徒に賞状と記念品（手作りブックカバーと牛乳パックのブックスタンド）を贈った。
- ・配架の大幅な見直しをする。本棚の空きスペースに余裕がなくなってきたので、独立していた杉並文庫を一般配架に混ぜた。昇降口側から職員室前・校長室前・保健室前と3か所ある本棚のうち、職員室前の棚は継続して9類を主に配架。校長室の前の棚に9類の続きと8類、0類からを順に並べ、保健室前の棚に続ける。

5 中央図書館サポート職員による支援内容

- ・選書のアドバイス・本の分類の確認。
- ・展示物のアドバイス。
- ・季節飾り・展示用スタンド（ポップスタンド・ブックスタンド）の作成。
- ・配架アドバイス。（8月来校）

6 学校図書館貸出実績

（1）年間貸出冊数

個人貸出冊数

	1年	2年	3年	総合計
年間合計	85	19	16	120

※昨年度は冬季休業期間中の長期貸出のみの対応であったため、本年度の比較対象にするデータはない。

(2) 月別学校図書館貸出実績

	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総合計
冊数	6	36	45	27	1	4	1	120

※9月より個人貸出開始。

7 本年度の成果及び来年度のに向けた課題

(1) 本年度の成果

なによりも図書貸出を開始できたことが大きい。貸出の手続きには必ず図書委員か担当教諭を通すことにしたため、図書委員の活動の幅も広がった。

面出しの本をこまめに替え、ポップを作り、生徒や先生の興味を引く棚づくりも模索した。面出しした本の利用率はとても高い。

(2) 来年度に向けた課題

企画スペースを捻出したい。場所がないことから本棚にあいたスペースを利用して小さなおすすりめコーナーを作るなどしたが、季節に合わせた企画本の紹介やイベントを増やしたい。

ただ、来年度は1クラス減る予定で全学年が1階の教室に収まる見込みである。2階は会議室と相談室のほかは全て特別教室となり、生徒が足を運ぶ頻度は今年度よりも下がるものと考えられる。1階にはまとまったスペースは取れないため2階を活用したいが、生徒を呼び込むための工夫を考えていきたい。